

■2018 D1 GRAND PRIX SERIES Rd. 3 AUTOPOLIS DRIFT

コースコンディション：予選ウエット、決勝ウエット→ドライ

PACIFIC RACING TEAM DUNLOP 村山悌啓選手（車両：NAC ガルパン S14 激☆メガテック IK）

最終成績：ベスト16 敗退（13位）

■レポート

第2戦からわずか2週間のインターバルで2018年D1GPシリーズの第3戦が開催された。場所はスーパーGTなども開催されるオートポリス。ただし、D1GPではストレートからファイナルコーナーを逆走で使用する。

前戦ではエンジン不調に苦しめられた村山選手。このインターバルのあいだに、エンジン本体を組み直し、関係する補器類もことごとく交換し、エンジンを完調な状態にもどしてきた。そのため金曜日の練習走行はナラシ。土曜日からは本格的な練習走行に入る。

土曜日。1回目の練習走行では何通りかの走りを試し、発表されたDOSSの得点をチェックし、そのうち得点がよかった走りかたを2回目の練習走行で仕上げるといふプランだ。けっきょく、ごくオーソドックスに走るスタイルが点が出るのがわかったので、ふつうの走りかたで行くことにした。

雨の中での予選は、グループの走行の途中で雨が激しくなったため、1本目がやり直しになるといふハプニングもあったが、まずまずの走りを見せ、Bグループをトップで通過。翌日の単走決勝に駒を進めた。

日曜日の単走決勝は晴れ。村山選手は4番目の出走となった。このときは路面がどんどん乾いていく状況で、村山世選手の走りもわるくなかったものの、後に走行した選手がより高い点を出し、1本目で上位8人に入ることはできず、2本目の走行にまわった。1本目とまったくグリップがちがう路面状況でミスをするドライバーも多かったなか、村山選手は大きな振りをみせ、なんとかドリフトをもとどきずに走りきって、13位で追走トーナメント進出を果たした。

追走トーナメント・ベスト16の対戦相手はGT-RのVR38エンジンを積んだシルビアに乗る植尾選手。この日の単走決勝でも絶好調だったドライバーだ。1本目は植尾選手が先行。村山選手は加速でややあいたを開けられ、振り返したあとで植尾選手が少しふらついた際に距離を詰めたものの、アドバンテージをとるには至らず、2本目は後追いの植尾選手に近い距離でドリフトを合わせられ敗北となった。

これで第3戦の成績は13位。シリーズランキングでは22位となった。

■村山悌啓選手コメント

後追いは正直やりようがないんですよね。先行はもっといろんなパターンがあったんで、あとから動画を見て思ったのは、相手がこのクルマだったらもっとこういうふうになればよかったなあっていうのはありますね。ただ、けっこうクルマのポテンシャルがちがうんで、やる前は「勝負にならないかな」と思ったけど、直線も意外といけたんで、ちょっとやる気が出ました。だからまだ自分の運転でなんとかいける気がしますね。

今回のラウンド全体を通しては、何とかかなりましたけど、全部追い込まれましたよね。予選も2本目で何とか通過。単走決勝も2本目で何とか通過。予選とか、最初は当確だったのにやり直しになって幻の1本になっちゃった。で、自分の番になったら雨が強くなって……。そんな状況だったんで、まだ自分に風が来てないなというのは、正直感じますね。でも大阪の時は走れなかったのが、今回の厳しい状況の中では、ベスト16まで残れて、ある程度できたほうだったんじゃないかなとは思っています。